

令和6年度 四條畷南小学校 学校経営計画

四條畷市立四條畷南小学校
校長 杉本 政信

1 学校経営方針

子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化をしており、人生100年時代や超スマート社会(Society5.0)の実現に向けた人工知能(AI)やビッグデータの活用などに向けた、急速な社会システムの変革に対して、学校教育の果たしていく責任は日々増している。

これからの未来を生き抜く子どもたちに求められている力は、互いのもちあじ(多様性)を活かしながら様々な課題解決に向けてつながりを持って協働し、より良い社会を築いていこうと努力し続けることであると考えている。

そのような子どもたちを育てていくために、南小では、自分の将来に夢を持ち、しなやかにたくましく生きる力を育成していきたいと考える。四條畷市教育振興基本計画を基に、今年度の学校教育目標を以下のように設定した。

【学校教育目標】

「夢を持って自ら学び、たくましく生きる子ども」

～ つながり 安心安全 協働 家庭・地域との連携 ～

今年度は、以下の視点について重点的に全ての教育活動の中で意識し取り組んでいく。

①子どもどうしや子どもとおとなの「つながり」

- 子どもたちが、自分の考えを持ち、豊かな言葉でまわりに伝え、まわりの人間とつながりをつくる力を全ての教育課程で意識しておこなう。
- 自分のもちあじを理解し、困った時にまわりに助けを求める力の育成をめざす。
- 仲間の意見を最後まで聞き、自分の考えを高める子どもたちになるよう取り組む。
- 学級・学校・地域をよりよくするためにつながりを深め行動できる子どもの育成をめざす。

②「安心安全」な学校・学級の環境づくり

- 子どもが安心できる居場所づくりや自分を受け入れてくれる存在になるよう取り組む。
- 全ての子ども(被差別部落にルーツのある子ども、外国にルーツのある子ども、障がいのある子ども、性的マイノリティの立場の子どもたちを含む)たちが自分のことを好きになれる人権教育の充実を図る。
- 子どもが安心してチャレンジできる、励ましや享受の雰囲気溢れる学校づくりに全ての教職員で取り組む。
- 自分や友だちの命や体を大事にできる保健教育や防災教育の充実を図る。

③「協働」的な学びの場づくりを通じた学力向上

- 主体的対話的な深い学び(児童自らが問いを立て、協働した学びで自己の考えを深める)を意識した授業研究に全教職員で取り組む。
- 市のSAMRモデルに基づき、タブレットPCを使用した授業づくりを、年間を通しておこない児童のICT活用スキルを向上させる。
- 様々なおとなと出会い、自分がめざしたい将来の夢や展望につながるキャリア教育の充実をはかる。

④「家庭・地域・学校の連携」の充実と深化

- 学校の教育活動を様々な形で保護者に伝え理解を求めていく。
- 南小教育ボランティアの充実(エプロン先生を含む)と、教育活動への地域の教育力の参加を進める。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	確かな学びのある学校 家庭地域と連携して子どもを育む学校
★めざす子ども像	夢を持って仲間と協働して学ぶ子ども 自分も仲間も大切にできる子ども やってみようと挑戦することのできる子ども

(様式1)

★めざす教師像

子どもの成長のために力を合わせられる教師 子どもを理解し寄りそえる教師

3 学校の現状（よさと課題）

(1) 子どもたちの実態

本校児童は明るく素直で、友だちにも親切にやさしく接することができる児童が多い。知的好奇心も旺盛であり、楽しそうなことや新しい事に対して意欲的に取り組むことができる。子どもたちの根底にある自己肯定感・自己有用感の高さが上記の内容を下支えしていると感じている。しかし一方で、自分の考えや気持ちを丁寧に相手に伝える力や、自分の未来をイメージしながら夢に向かって努力する力、やってみようと挑戦することができる力の育成が課題である。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校児童の家庭環境について、保護者は我が子に対する愛情や関心を持って子育てをおこなっている家庭が多い。家庭での教育環境については、子育てについての考え方が多様であることや、保護者の多忙さなどから校区内でも一様ではない（習い事に通う児童の数、家庭学習に保護者が関わる時間など）。

②地域

伝統的な地域のつながりを保ち、地域のおとなたちで子どもたちを見守り育てようとの意識をもっておられる地域の方は多い。学校安全協議会や民生委員、地域コーディネーターをはじめとして、子どもの安全確保やすこやかな育成のために熱心に力を貸してくださる方も多い。

③組織（教職員、PTA、保護者）

教職員は学校全体の課題や個々の児童の課題を共有しようとする意識を持っており、新しい取り組みへの共通理解も早い。児童への関わりを丁寧におこない、児童保護者との信頼関係を構築していく力を持っている。また教職員どうしのサポートや協力も相手意識を持ち行動している教職員が多い。

保護者の学校への期待や関心は高く、学級・学校の取り組みへの理解も得られやすい。保護者と学校がどのように子どもを中心にすえて協働していけるのか、取り組み方について検討を重ねていく必要がある。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校の経営』

A 今年度の成果目標

達成基準（各種調査、アンケート等）

学力向上に学校組織をあげて取り組み、児童に主体的・対話的で深い学びを実現する。

下記「B 達成基準」参照

B 目標実現に向けた取り組み

項目	達成基準	具体的な方策
協働的な学びを通して児童の学力向上をめざす	全国学力・学習状況調査(国・算)の平均正答率1.0を達成する	授業改善加配を中心とした授業づくりの研究を、年間を通しておこない、自分の考えを持ち伝えていく力を育てために「聞く」事に注力した授業づくりの取り組みを進める。協働的な学びを通して今日的に求められている児童の学力向上を学校全

(様式1)

		体でめざす。
自ら問いを持ち解決していく学習を通して、児童の主体的・対話的に学ぶ力の育成をめざす	児童アンケート 「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」肯定的回答 90%以上	学習指導部を中心とした、授業研究に取り組む。「南小授業スタンダード」を基本とした授業ルールにのっとり、児童が自ら考え取り組む授業づくりを、年間を通して研究実践していく。
学びに向かう力の向上をめざす	児童アンケート 「学習したについて分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」最肯定60%以上	何を学習したのか、わかったことは何なのかを認知し次の学習への調整力を高めていく。具体的には学習指導部を中心に「リフレクションシート」を活用し、児童のメタ認知力向上を図り、基礎基本の学力の定着と、自己調整力を向上させていく。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
主体的、対話的で深い学びを実現できるよう教職員の意識を高め、組織的な取り組みをおこなう		下記「B 達成基準」参照
B 目標実現に向けた取り組み		
項目	達成基準	具体的な方策
児童が課題解決に受けて話し合い、協働的な学びの場をつくり、自分の考えを「書いて」表現できる力をつける	教職員アンケート 「児童が課題解決に向けて話し合うなど、協働的な学びの設定に取り組んでいますか」最肯定50%	本校の研究テーマにそって、児童が意欲や相手を意識して「知識技能を生きて働かせる」教育活動について深めるような国語科の授業研究を進める。
ICT活用の推進、校務支援システムを利用した働き方改革の推進	児童アンケート 「ICTを使用することで、進んで学習するようになりましたか」肯定的回答90%	一人一台の児童用タブレットを有効に学習活動に活かせるように、校内でも情報共有や研修を行う。市のSAMRモデルを指針として授業でいかに児童が機器を活用してアウトプットできるかを研究実践していく。 タブレットPCの安全な使い方について児童・教職員とも学び安心して使用するための方法を子どもたちに理解させていく。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
児童の自己肯定感・自己有用感を向上させ、自分を高めようとする意欲を育てるために、教職員の資質向上を図る。		下記「B 達成基準」参照
B 目標実現に向けた取り組み		
項目	達成基準	具体的な方策
安心・安全な学級集団づくり	右記具体的方策に	〇クラスの中に自分の気持ちを分かってくれる人がいる

(様式1)

くり	対応する児童アンケート項目: 否定的回答が10%以下	○クラスの人から認められることがある ○みんなのためになることを見つけて行動している。 上記の観点を立て、自信をもって人間関係を築き、積極的に挑戦する意欲を育てる。友だちや下級生に対し、互いの違いを理解し、助け合う心情を育てる。
不登校への対応	不登校 ゼロ	校内・家庭での表出する児童の問題行動に対し、校内組織体制で解決に向かう。具体的には、学年部会での情報共有やケース会議での他の関係機関と連携しながら具体的方針検討実行を通して、児童が安心して過ごせる環境整備につなげていく。生活指導部長をリーダーとして、気になる児童の見守りや支援を担任と連携しておこない気になる児童のフォローアップを日常的におこなう。
教職員の授業力向上	児童アンケート「国語・理科の授業はわかりやすい」 最肯定70%以上	年間を通した国語科の校内授業研修や、授業改善担当の授業づくり研修、各教職員の「ちょっと研修」を充実し、児童にとってわかりやすい授業づくりのスキルを向上させる。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準 (各種調査、アンケート等)
地域コミュニティづくりの推進、家庭教育支援の充実		下記「B 達成基準」参照
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
家庭学習の習慣化	保護者アンケート「子どもは宿題や自主学習にがんばって取り組んでいる」 否定的回答10%以下	家庭学習のねらいを明確化し、保護者にも周知する。 西中学校区内での「夢ノート」などの学力向上の取組みを参考に、自主学習の取り組み方を検討実施していく。 自主学習ノートを計画的に取り組む、
開かれた学校づくり	保護者アンケート「学校の教育活動は保護者によく知らされている」 肯定的回答90%以上	学級便り、学年だより、学校だより、ホームページでの積極的な情報発信。 西中校区学校運営協議会(コミュニティースクール)での南小の運営方針や活動についての承認、地域の児童・民生委員との連携と情報交換を積極的におこない地域総がかりで取り組む雰囲気づくりをすすめていく。

5. 全ての教職員で大切にしていくこと

多様性を認める

子どもたちの事を、我々おとなが興味をもって理解につとめましょう。教師にとって「気になる児童」のもちあじや家庭背景をつかみ、児童の「困り感」の共有を意識的におこないましょう。子どもたち一人ひとりがもつ多様性を大切にして、子どもたち同士や子どもとおとなが「違うことは豊かさ」と言える学校文化をつくりましょう。

(様式1)

人権感覚を研ぎ澄ます

全ての教育活動の根幹に人権教育が流れているかどうかは何よりも大切なことです。子どもが学校生活において言われなく傷つけられること・意見を表明できないこと・集団から外されることを出してはいけません。そのために人権教育を一つのカテゴリーと捉えるのではなく常日頃から人権感覚を研ぎ澄ませ、相手の立場を尊重する行動を意識しましょう。

公立学校の使命を果たす

私たちは公立学校(地域に根ざした学校)の職員です。地域のすべての児童をだれ一人見捨てないということが大前提です。南小で働くということは子どもの一番の理解者になるという事です。児童に対し、たとえ服装や持ち物がそろわなくとも、教室に入れなくても、とにかく「安心して学校において」という心構えを持っておきましょう。

児童の力を信じる

私たちおとなが思っている以上に子どもたちは力(可能性)を持っています。自分の考えを持てること、自分の意見を言えること、困った時にヘルプを出せることなどの力の育成の為に、意見をしっかり聞いていける教職員集団でありましょう。

危機管理意識を共有する

危機管理意識は、教職員全員で共有できてこそ、みんなにとって安全で安心な学校になると考えます。火事がない時でも消防車はいつもピカピカに磨き上げられています。危険を察知する力何かあればいつでもだれでもすぐに走って駆け付ける心の準備が必要です。

美しい学び舎をつくる

安全で安心な学校の基本は美しい学び舎であることです。児童が明日も登校したいと思えるような学校でなければいけません。プリントや鉛筆が床に散乱している教室にはだれも気持ちよく入れません。児童と共に美しい学び舎をつくることを心がけましょう。

夢を語り合う

職員室は先生方がほっとできる場でなくてはなりませんから、児童や保護者の愚痴が出るかもしれませんし、それも時には必要です。でもそれ以上に「あいつええやつやなあ」という話がたくさん交わされる職員室は素敵だと思います。時には青臭い教育論や学校への夢を語り合える職員室でありたいものです。

お互いのメンタルを気遣う

おとなだって、いろいろな条件や事情を抱えながら南小で勤務しています。お互いを信頼し多様性を認めることを職員室で果たすことができなければ、児童に多様性を教えることはできません。お互いのメンタルを気遣い、みんなが頑張ろうと思える教職員集団でありましょう。